



ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が五類に移行し社会経済活動が徐々に平常に戻りつつありますが、反面、団塊の世代が徐々に職場からリタイアしていく今日、あらゆる職場で人手不足をきたしています。労働環境・労働条件の改善で職場環境は改善されつつありますが、物価の高騰で以前に増して生活が厳しくなってきたように思います。

さて、聖愛園は平成九年に落成し、平成十年七月から事業を開始しました。築二十六年が経過し老朽化が目立つようになってきました。平成二十八年には当時ガスエアコンが配管の詰りから徐々に効かなくなってきたので、電気エアコンに変えました。更に電灯を全てLEDに交換をしました。令和二年度から三年度にかけては、コロナ対策で居室の個室化を計りました。

車椅子の利用者さんが、動きやすいように一部多床室も残しています。

令和四年度は中庭を改修しました。草が生えて見苦しいので人工芝を張り、東屋を立て気候の良い時期には中庭で自由に過ごせる空間をつくりました。

浴槽が狭く、一度に三人しか入れなかったのも、浴室内を全面改修し多数が一度に入浴できるように改修しました。

令和五年度は外壁・屋根塗装改修工事をしました。外から見ますと新築の園舎に見えるように大変きれいになりました。ほかに、管理棟のエアコンの改修や、厨房の器具備品を買い替えていますので、しめて約一億円を投じリフォーム致しました。

毎年計画的に改修してきましたが、令和五年から建築資材高騰の影響が出てきましたので、良い時期にリフォームが完了できたとお思います。

ほぼ、気になるところは改修しましたが、非常時の備蓄倉庫を増築したいとお思います。

発行所
聖和福祉会
聖愛園

〒519-2211
三重県多気郡
多気町丹生4701
TEL 0598-49-3115
FAX 0598-49-3783

サニープレイス

〒515-0052
三重県松阪市
山室町2580
TEL 0598-30-5585
FAX 0598-30-5586

今後の経営は大変厳しくなってくるような気がしますので、経営内容を見ながら予算の許す範囲で、利用者さんの快適な生活環境と、職員の所得の向上に努めてまいりたいと思っております。

社会福祉法人 聖和福祉会
理事長 戸野 和雄

研修報告

今回、障害者支援施設部会全国大会、九州地区沖縄大会の研修に参加しました。沖縄方言の「語やびら」と題し、「どうするか」を語ると、「どうなるか」が見えてくる。しつかりと話し

合おう。ということでした。日本が国連から「障がい者が地域で暮らす権利が保障されていない」という改善勧告を受けたことを深く受け止め、障害者支援施設の存在意義を話し合いました。

私は、国連に提出された資料で「入所施設」のことを「収容施設」と訳されていたことが一番ショックでした。私たち支援員は、集団生活の中でも、出来る限り利用者さんに寄り添った支援をしています。断じて「収容施設」などではないということとを強く言いたいです。

今回、他の施設の取り組みなども沢山聞け、また、「ゆんたく」や「ワールドカフェ」など、今までの研修とは違った方法で話し合うことが出来、とても興味深く、良い経験になったと思います。

生活支援員 上山 純子



外出活動

令和五年五月八日、新型コロナウイルスが二類感染症から五類に移行されました。

これに伴い、法律に基づく外出自粛要請が終了になり外出については個人の判断に委ねられることになりました。

世間では、公共機関や飲食店に設置されていた飛沫防止のパーテーションやアクリル板が撤去され、観光地ではかつての賑わいが少しずつ戻ってきました。

感染状況は地域によって異なることから、感染状況に留意しながら聖愛園でも外出活動の機会を増やしていくことになりました。

適切な感染防止対策を行った上で「大台道の駅」「飯高道の駅」「ヴィソン」等密にならない場所や時間に外出活動に出掛けます。久しぶりの外出に、利用者さんも職員もうれしい気持ちで自動車に乗り込みます。

活動は午後から出ることが多いので、外出先では、おやつにコーヒーを飲んだりアイスクリームやポテトフライを食べたりしながら広い空や美しい景色を眺めてのんびり過ごしています。お店の中を見て過ごす時間もとても楽しいです。

昨年は、二回三回と順番に外出することができました。「また行きたいなー」「またみんなと一緒に行こな」と、帰園してからも思い出している笑顔で会話が弾みます。職員は、そんな利用者の方々の笑顔に励まされ、日々がんばる元気をもらっています。

今年も充実した毎日を過ごしていただけるよう、職員一丸となって尽力していきたいと思っています。

生活支援員 松田 紀子



← 季節の景色を感じ、見たりしてもらうのも活動の目的です。

喫茶

聖愛園では、地元の洋菓子店のスイーツを喫茶の時間に、提供しています。

毎月二回、行事や誕生日喫茶の時間など、ひな祭りやハロウィン、クリスマスなどの行事に華やかなスイーツを特別に作っていただいています。利用者さんも職員もスイーツを見ると、笑顔があふれます。

皆さん食形態は違いますが、全員が同じ物を食べられる様に工夫して作られており、おいしさもひとしおです。

毎月二回の喫茶は、皆さんにとってお腹も心も満たされる楽しい時間になっています。これからも、皆さんに穏やかで、笑顔の溢れるひと時を過ごして頂きたいと思っています。

生活支援員 坂本 かおり



聖愛園 クリスマス会

昨年のクリスマス会はコロナで中止になってしまい楽しみにしていた利用者さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。今年は無事に開催できて良かったです。

今年も外部からのボランティアやバンドなど呼ぶことは出来ませんでしたが、ダンスの得意な利用者さんが舞台で踊りを披露してくれたり、施設長と一緒に大勢の利用者さんが楽器演奏



↑クリスマスといえばツリーにケーキ！今年も美味しいケーキを洋菓子店に作って頂きました☆

をしてくれました。
デザートは専門店のケーキを美味しくいただきました。
最後にプレゼントですが、私はサンタクロースに扮してプレゼントを渡していました。あまり表情を見る事が出来なかったのですが後で聞くと皆さん喜んでいただいていたと聞いてホッとしました。

早くコロナが終結して保護者の方々も聖愛園に来られる日が来ることを切に願っています。

生活支援員 辻 賀津雄



←利用者さん&施設長による演奏会や利用者さんのダンスの披露で盛り上がりました！



サンタからのプレゼントをニコニコの笑顔で受け取ったり、記念撮影をしたり楽しい時間を過ごしました☆



サンタさん
ありがとう☆



医務だより

この冬はインフルエンザが大流行しています。その中でも、短期間のうちに複数回インフルエンザにかかる事も珍しくないようです。

その理由は、インフルエンザウイルスが複数存在するからです。一度かかると対象ウイルスに対する抗体ができるので同じ種類のインフルエンザには再感染しませんが、違う種類には効果がないため複数回かかる事になります。

インフルエンザA型に二回かかる場合は、A型には複数の型があるため同じA型に再感染する事があります。病院で行う迅速検査では、A型かB型かは判別できませんが、具体的な型まではわかりません。「インフルエンザA型」と診断され、同じA型に二回かかったように見えることがあるのです。

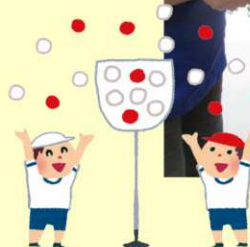
インフルエンザA型とB型にかかる場合もありますが、A型とB型は全く異なるウイルスによるものなので、A型、B型にもかかる場合があります。

インフルエンザの流行は十一月から三月までの約五か月間と長期にわたる感染予防が必要になります。

聖愛園では、インフルエンザ重症化予防として、十一月九日に予防接種を受けました。また日常的に、手洗い、手指消毒、うがい、マスク着用などの基本的な感染予防を徹底してインフルエンザ、コロナウイルス等の感染予防に努めたいと思います。

看護師 木下 明美

運動会



毎年恒例の秋の行事、聖愛園運動会が九月二七日に行われました。

競技種目は「玉入れ」「お菓子取り競争」「ボール回し競争」の三つです。利用者さんは赤組と白組に別れ、はちまきを付けて参加しました。

「玉入れ」は、車椅子の方と自立の方に分かれて、行いました。皆さん、一生懸命取り組まれていました。「お菓子取り競争」は、笑顔でお菓子を取る方が多く見られました。「ボール回し競争」は、円形に座ってもらいボールを回しました。ボールを落とすしてしまう利用者さんも見えましたが、最後までボールを回すことができました。

コロナ禍で体を動かす機会が減っていましたが、利用者さんのたくさんの笑顔が見られ楽しそうに体を動かしていました。

生活支援員 藤原 康雄

虐待研修への 取り組み

令和五年度の虐待研修は、これまでとは志向を替え、現在職員が抱えている事柄について事例検討を中心に行っています。コロナ禍で、外部講師を招いての研修実施は難しく、DVDを活用したり、研修を受けた職員からの伝達研修を行ってきましたが、自分自身あまり納得のいくものではありませんでした。それらもとても大事な研修材料ではありますが、今現場で起こっていることや、他の施設で虐待認定された事案をもとに、職員に事例検討という形で記載してもらい、「こうしたらいいと思う。」「私はこうしている。」「こうやって声かけをしたら、こうだったよ。」等、経験や実態を踏まえた意見や感想の全てをまとめ、回覧という形でフィードバックする研修を何度か繰り返し行いました。

私たちは今、『不適切な支援』『虐待』という二つの言葉を毎日のように耳にしながら利用者支援にあたっています。利用者から暴言を吐かれ、時には被害を受け、心が折れそうになる日も少なくありません。だからと言って虐待は決して許されるものではなく、利用者さんが安心して暮らすことのできる空間を提供することが私たちの目指すべきことだと思っています。一緒に笑い、一緒に泣き、コミュニケーションを図りながら、寄り添っていけたらと思っています。

今年度取り組んだ虐待研修は、職員一人一人が、自分の言葉で、自分の考えを発信する、また、自分の支援を振り返る、とても意味のある研修になっていると思います。しかし、それだけで終わることなく、職員の心の安定や、利用者さんたちの笑顔に繋げていくことが私の役割りと肝に銘じ、微力ながら今後も尽力致す所存です。

サービス管理責任者 羽根 めぐみ

ハロウィンパーティー

元々、ハロウィンはアイルランド系移民が米国に持ち込んだそうで、昔はカボチャではなくカブで「ジャック・オー・ランタン」を作ったそうです。ハロウィンが日本に定着したのは一九九六年に東京デイズニールランドでのハロウィンイベントだと言われています。(諸説あり)

本来は十月三十一日に行うイベントですが、聖愛園は十月二十五日に行いました。形式張ったというよりは楽しいイベントとしての側面が強いハロウィンは楽しく遊ぶという事ととても相性が良いです。利用者さんは、職員手作りのゲームを楽しまれ美味しいデザートを堪能されました。長い期間をかけて作った物を片づけるのも祭りの後の疲労感があり、それはそれで風情があって良かったそうです。そんな事を感じる年齢になったようです。

生活支援員 西牟田 正喜



新任職員挨拶

昨年八月より、生活支援員として聖愛園でお世話になっておる辻本と申します。よろしくお願ひ致します。以前は、高齢者施設に勤めていました。その後、ご縁があり障がい福祉の道へすみ就労支援B型作業所・生活介護事業所と経験させて頂きました。働いていくうちに、更に利用者さんの生活に近い入所施設で働いてみたい、という思いが生まれました。

入所施設でのお仕事は初めてで、どんな感じなのだろう？自分に勤まるのだろうか？と不安もありましたが、先輩方の丁寧な指導や、気にかけてくださる優しい言葉がけに不安も軽減して行きました。性格的に、おっとりした部分がある為人の何倍も努力が必要かとは思いますが、一日一日を大切に学ぶこと、感謝の気持ちと笑顔を忘れずに過ごしていきたいと思ひます。

まだまだ、至らないところだらけですが、少しでも利用者さんの気持ちに寄り添える支援が出来る様に頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。



生活支援員
辻本 千春

栄養だより

昨年九月から聖愛園で管理栄養士として勤務しております齋藤と申します。

管理栄養士は大きく分けて二つの職務があります。利用者さんの健康を食事面からサポートする「栄養管理」と、安全でおいしい食事作りのための「給食管理」です。

身体は食べ物で出来ているといっても過言ではありません。栄養量が不足すると筋肉量が減少し、転倒事故などに繋がる恐れがあります。活動的でお元気に過ごしていただくためにも食事（栄養）はとても重要で、栄養管理の責任の重さを感じております。

冬場でも食中毒のニュースをよく耳にします。「おいしい食事」は当たり前ですが、集団給食ではそれ以前に「衛生的で安全である」ことが大前提です。少しの気の緩みが事故（食中毒）に繋がるため、気を引き締めて業務に当たっております。

利用者さんには「美味しく食べてお元気に過ごしていただく」ことが私の願ひであり、管理栄養士として一番大切にすべき事と肝に銘じ、これから日々精進していききたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。



管理栄養士
齋藤 伊都子

ご厚情深く御礼

申し上げます

自令和五年七月二十九日
至令和六年一月十二日

〆芳志〆芳名（敬称省略）

（匿名で頂戴しております）

物品寄付〆芳名（敬称省略）

神廣かよ・東谷順子・浅野徳夫
水谷ゆかり・南条訓・田中広樹
印南勝・堀内幸代・辻野くみ子
でんきや・向野園
上設クオリティ・（株）マルエイ
三重義肢

（匿名で頂戴しております）

機関紙ひだまり第五十九号を発行させて頂きました。〆一読いただければ幸いです。宜しければ聖愛園とサニープレイスのブログもご覧下さい。

<http://seiaien.exblog.jp/>
<http://seiwafukushikai.com/blog/>

編集 聖愛園